

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

デイリー・ジーザス・ニュース #116

9. イエスは信者に永遠の命を保証する

ヨハネ6.41-51

41 すると、そこにいたユダヤ人たちは、イエスがこう言われたので、不平を言った。「わたしは天から降って来たパンです。」 42 彼らは言った。「これはヨセフの子イエスではないか。その父母は我々が知っているではないか。どうして今になって、こう言えるのか。」 **「私は永遠に天から降りてきたのだ」？**

43 **「あなたたちの間で不平を言うのはやめなさい」** イエスは彼らに命じました。

44 **「わたしを遣わした父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのところに来ることはできません。しかし、わたし自ら終りの日にその人をよみがえらせます。45 預言者にはこう記されています。「彼らは皆、神によって教えられるであろう。」（イザヤ書 54:13）父の声を聞き、父から学ぶことを習慣とする者は皆、私のところに来ます。」**

46 **「神から来た者以外には、父を完全に見た者はいない。神から来た者だけが、父を完全に見て理解したのである。」** 47 **よくよくあなたがたに告げます。信じ続ける人は、本当に永遠の命を持ちます。48 わたしは永遠の命を与えるパンです。**

49 **「あなたたちの先祖は荒野でマナを食べたが、死にました。50 しかし、ここに天から降って来たパンがあります。それを食べても死ぬことはありません。51 わたしは天から降って来た生きたパンです。このパンを食べる人は永遠に生きます。このパンはわたしの肉であり、わたし自身がこれを世の永遠の命のために与えます。」**

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	カペナウムのシナゴーク
タイムライン	4月上旬（26ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

1. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

タイトル	9. イエスは信者に永遠の命を保証する
------	---------------------

コメント：

この朗読において、イエスは5000人に食事を与える奇跡の象徴性を用いて、ご自身を信じるすべての人々に永遠の命を与えるというご自身の役割を改めて示されました。6章47節には、聖書全体の中で最も簡潔な永遠の命の約束が記されています。

「まことにまことに、あなたに告げます。(私を)信じ続ける人は、本当に永遠の命を持つのです。」ギリシャ語ではたった9語です。冒頭の「まことに、あなたに告げます」を除けば、核となる文、つまり完全な文は、わずか5語のギリシャ語、24文字で構成されます。これがイエスによる福音の要点です。この5語のギリシャ語は、この地上でなされた最も重要な約束を成しています。**「私を信じ続ける人は、永遠の命を持つのです。」**

イエスは、父なる神が万物を支配する主権と、すべての人が信じる完全な自由を固く信じていました。これらはイエスにとって相反する真理ではありませんでした。神の主権こそが人類の自由意志を可能にしたのです。この説教から、このことをどのように見るのでしょうか。

一方で、イエスは信じる人々について「誰でも」あるいは「誰でも」という表現を繰り返し用いました。前の箇所で見たとおり、イエスの扉は誰にでも、つまりすべての人に開かれていました。また、イエスはギリシャ語で特定の条件句を用いており、それはイエスを信じることを選ぶ者なら誰でも、実際に信じるのが可能であることを意味していました。

自由意志がなければ、信じるすべての人に永遠の命を与えるという公然たる約束は、真の約束とはならないでしょう。もしすべての人が信じるかどうかを決める能力を持っていないとしたら、それは「もしあなたが海の底まで泳ぎきったら、永遠の命を与えよう」と約束するようなものです。

海の底まで泳ぎたいとどれほど願っても、私たちにはそれだけの肺活量も、その深さの水圧に耐える力もありません。その「約束」は、不可能を前提としているため、真の意味を持ちません。イエスが**「信じる者」と約束されたとき**、それは有効な約束でした。なぜなら、信仰は私たちにとって真に可能なものだからです。

同時に、イエスは**「父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとに来ることはできない」**(6.44)と断言されました。つまり、私たちの信仰の中身、つまり私たちが信じるイエスは、私たち自身の信仰の力や意志によって作り出せるものではありません。三位一体の神は...

*客観的に存在する

*自らの主権によってすべてのものを創造し、維持する

*イエスにあって肉と血となる

*私たちにご自身を現す

*自らの死によって私たちの赦しを得る

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

1. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

る
*永遠の命で死からよみがえり、信じるすべての人にその命を与えることができるようになる

これらすべて、そしてそれ以上のことを行えるのは、完全に主権を持つ神だけです。そして、その主権を持つ神は、私たちが神を信じることを選択できるよう、神の約束を十分に理解できるよう、私たちの人生に働きかけなければなりません。キリストを選ぶという私たちの自由意志は、それを可能にしてくれる神の主権的な意志に完全に依存しているのです。

神の主権と私たちの自由意志という二つの真理があるからこそ、誰でもイエスを信じることができます。神はその主権的な意志によってそれを可能にされました。神が主権者であるからこそ、永遠の命は確実です。神が私たちの自由意志を可能にしてくださるので、神との関係を持つかどうかは真に私たちの選択であり、それは私たちの真の愛と献身の行為であり、強制されたものではありません。愛は自由でなければなりません。そうでなければ、それは愛ではありません。

神の主権は、私たち自身の自由意志によって認識され、受け入れられるときに最も栄光を現します。イエスはまさにそのように捉え、福音を説きました。「命のパン」の説教は、聖書全体を通して完璧なバランスを保ちながら共存する、この二つの相補的な真理の素晴らしい例です。この二つの真理があるからこそ、イエスはご自身の人生、そして私たちの人生において最も重要な約束をすることができたのです。

「(私を信じ続ける人は) 本当に永遠の命を得るのです。」

応用：

神はすべてのものの主権者なので、私たちは神がすべてのことにおいて御自身の完全な御心を成し遂げるために働かれることを知っています。神の力によって私たちの自由意志が与えられたので、私たちは自分の存在、言葉、行いすべてについて、神の前で真の責任を負っています。

あなたはイエスをあなたの救いの主であり神であると信じることを決心しましたか？

まだお済みでないけれど、ご興味をお持ちの方は、<atjministries@gmail.com>までご連絡ください。私たちはあなたのために祈り、イエス様を信じるという決断を下すお手伝いをさせていただきます。